同窓会報

鳥羽商船同窓会
〒517-8501
三重県鳥羽市池上町１番１号
ＴＥＬ（0599）25-8045
ＦＡＸ（0599）25-8128
携帯電話 090-7612-2979
振替口座番号 00850-6-846

我等！鳥羽商船

◆ 目 次 ◆

同窓会会長・学校長　挨拶…… 2
令和４年度　本部会務報告…… 4
令和５年度　本部会務計画…… 4
令和４年度　会計報告…… 5
令和５年度　予算…… 5
令和５年度　同窓会役員・理事（改選）… 6
同窓会の活動…… 6
同窓会設立100周年記念事業について…… 9
NPO法人故郷の海を愛する会の報告…… 10
学校だより…… 12
支部だより…… 14
投稿記事…… 16
特集「我等! 鳥羽商船」…… 20
事務局だより…… 24
会員の異動等…… 25
寄付金・同窓会費納入一覧…… 26

同窓会会長・学校長挨拶

衣食住足りて礼節も矜持も失った日本人

同窓会会長　**菅沼　延之**
S48N（88期）

戦後生まれの私世代より、戦前戦中派の日本人の献身的な努力によって我が国は見事な復興を遂げ、少し前までは経済大国として世界に君臨していました。しかし、その事実が忘却の彼方へ過ぎ去ろうとしています。

バブル全盛の1988年、世界を舞台に活躍する企業戦士のための栄養ドリンク剤のCMで『24時間戦えますか』のキャッチコピーが流れていました。当時は世界の企業50位の中に日本企業が32社入っていましたが、昨年はトヨタ自動車が43位で独り奮闘している体たらくに成り下がってしまいました。又、それ以上に深刻なのは、2000年代初めの義務教育を受けた世代に実行されていた‘ゆとり教育’の弊害が今になって表れており、休むことが何より優先される状況になってきています。人的資源しかない我が国の将来を思うと暗澹（あんたん）たる気持ちになるのは私だけではないと思います。加えて標題として敢えて選びましたが、衣食住足りた日本人は礼節を知るはずでありましたが、今や礼節も矜持（きょうじ）も失ってしまい、根なし草の如く成り下がってしまいました。

いつの世代にも恥知らず礼節しらずの日本人はいましたが、絶対的に信頼されるはずの公職にある者や名門企業の醜態は、本当に子どもの教育に悪いと思うのは私だけではないでしょう。我々日本人が少し前まで言っていた『お天道様やご先祖様に申し訳ない』の名言や『嘘をついたら閻魔様（えんまさま）に舌を抜かれるぞ』は70歳になった今でも忘れない、子に対する親の教育であったと思います。

本年２月14日、公私に亘りご指導を頂きました豊田章一郎様がご逝去されました。『自分の職業で頑張っていくことは当たり前で、いかに自分の職業をもって社会のお役に立つかを考えなさい』と言われ続けられたことが思い出されます。又、豊田佐吉公の『障子を開けてみよ、外は広いぞ』の教えは私の座右の銘でもあります。

大谷翔平選手や國枝慎吾選手のように世界の舞台に果敢に挑戦していくことを忘れてしまった日本人が多くなりました。携帯電話でガラパゴス化した腐敗構造を省みず、国内の土俵のみで優劣を争っているようでは日本自体が閉鎖的な国家になっていくのは目の前に来ているように思います。

一度母校で、人生の先輩として、仕事の話だけでなく辿ってきた道のりを講演させて頂きたいものです。

最後に、２年後の創基150周年並びに同窓会設立100周年を迎えるに当たり、我等同窓・在校生は、近藤真琴先生に胸を張ってご報告できるよう一致団結して臨まなければなりません。そして、母校発展の為に一生懸命努力されている和泉校長の負託に応えるべく、私も粉骨砕身、負けじ魂で前に進んで参りますので、ご支援をお願い申し上げてご挨拶と致します。

学校長挨拶

鳥羽商船高等専門学校
校長　**和泉　充**

貴会から本校への日頃からの温かいご支援につきまして、深く感謝申し上げます。

世界的規模で猛威を振るった新型コロナウィルス感染症については、５月８日から日本政府が感染症法の位置づけを変更し、感染対策は、個人の自主的な取り組みを基本とすることとなりました。元気な声が溢れるキャンパスが戻りつつあることを嬉しく思います。小職もDCON2023、高専体育大会、漕艇大会などの応援、４年ぶりに実現した実習生のシンガポールに向けた銀河丸の遠洋航海の出航式に参列し溌剌（はつらつ）とした学生諸賢の活躍を前にして心なごむものがあります。

令和５年度は、法人としての第４期中期計画期間の最終年度にあたります。本校では、この中期目標と計画に沿って、資質と意欲をもった入学者の確保、教育課程の充実、教学マネジメントおよびアセスメントを着実に履行し、産業界のニーズに応える語学力や異分野理解力、リーダーシップ、マネジメント力等について、航海実習や課題解決型学習（PBL）また、いろいろなコンテスト等への積極的な参加を通じての涵養に努めています。広報活動の組織的かつ戦略的な展開にも努めており、入試広報室を入試対策室に改称して活動を展開しています。学生への修学支援と学生相談にも教職員一体となって尽力いただいております。

昨年度までに、文部科学省のデジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業の支援により、以下の整備が進みました。操船シミュレータでは、AIS（船舶自動識別装置）から得られるNMEA情報に基づき、有数の船舶交通の輻輳（ふくそう）海域である伊勢湾における船舶位置情報等

を収集し、リアルタイムに校舎内の操船シミュレータ画面上やレーダ画面上に航行している船舶の情報を表示する機能を実装しました。これにより、練習船鳥羽丸周りの情報がデジタル化され、シミュレータ上でデジタルツインとして再現できることで、より実践的で質の高い操船教育訓練が実現できるようになりました。さらに、小型船舶とシミュレータを連携させるため、AIS送受信機能を持たせた小型実習船『あけぼの』の代船を建造しました。機関システムにおいても、遠隔監視可能な内燃機関発電システムを学生寮（暁寮Ａ、Ｂ棟）脇に設置しました。発電機の安定稼働を遠隔から監視、挙動解析データの自動収集などが可能です。一方では、海象データ分析・人工知能構築クラウドプラットフォームを構想し、大量データの蓄積が可能で高速処理が可能なAI実装用計算機システムを導入しました。システムをどのように活用するかの例としては、PBLとして進めているマダイやブリなど魚類養殖の生産安定化のため、魚の活性状態の判定と給餌量を調整するAI自動給餌の実装や、牡蠣や真珠など貝類養殖の斃死（へいし）リスクの可視化に向けた、海象データの観測とAI分析を可能にして事前の情報提供等が期待されます。

本校は、以上の整備に続けて文部科学省の高専スタートアップ教育環境整備事業においてもスタートアップ教育モデルの確立と海事・水産・農業分野等への課題解決型学習の展開を目指しています。

多年度にわたり検討を重ねてきた練習船鳥羽丸の代船建造とこれに伴う浮桟橋の架け替え工事の両方に予算が措置されており、教育訓練はもとより、災害支援機能を備えた先進の「スマートシップ」ともいうべき練習船の建造が進んでいます。浮桟橋も災害等有事の際には、４トン車輌から船への物資往来が可能な仕様として地域への貢献も期待されます。就航の予定は令和７年３月です。

本年７月21日に報道発表されましたように、本校は大学・高専機能強化支援事業に採択され、大学・高専成長分野転換支援基金により、情報機械システム工学科に高度情報専門人材の確保に向けた機能強化として高度情報工学コースを設けることを計画しています。そこでは、生成系AI、サイバーセキュリティ、DX、データサイエンス、UI/UX/デザインをメインストリームとして、多様な事象を扱うこととし、１年時からPBLプロジェクトに参画させ、本校の特徴として海事・海洋DXの課題やスマート水産・農業、GXなどの課題に展開することとしています。インターンシップや地域や産業界と交わる環境を多様に提供し、学年縦断型のチーム編成と、IT産業技術者と交わることで主体的な思考の経験知を身に付け、新たな価値を創造する力、対立やジレンマに対処する力、責任ある行動をとる力と高度情報スキルを相乗させることとしており、ネットワーク環境のもと学びの場として集中できる個人ブースや議論の場を教室に限定せず、教育訓練を行うメタバース（仮想空間）を整備することとしています。この本科の改組により、おおよそ10年にわたる当分の間は、商船学科40名、情報機械システム工学コース100名となり、新コース設置に伴う新入生の受け入れは令和７年４月に予定されています。学生寮の室数の増加においては、すでに令和６年度以降に向けて要求しているところですが、新たなコース設置により、その必要性が増しており、寮建設の成就を念願しているところです。

日々動いているグローバル社会の中で本校は、我が国の社会基盤を支えている海上輸送、海運と情報機械システムという「今、必要な学問」を15歳から修める特徴ある高専として高度の船員と技術者の育成に弛（ゆる）みなく努め、成長戦略と社会の進化に沿って貴会をはじめとするステークホルダーとのお付き合いを深めながら日々取り組んで参ります。

同窓会におかれましては、益々のご発展をお祈りするとともに、引き続き本学へのご支援をお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。

統合報告書2022

キャンパスマスタープラン（CMP）2022

鳥羽商船高等専門学校
創基150周年・高専創立60周年記念事業基金

独立行政法人海技教育機構（JMETS）の練習船「銀河丸」が、令和５年８月10日（木）、東京港からシンガポールへ向け遠洋航海に出航しました。外地への遠洋航海はコロナ禍で中断を余儀なくされていたため、銀河丸としては４年ぶりの再開となりました。本校の実習生27名も乗船しています。

人　事

令和５年４月１日より
副校長と校長補佐を以下としました。

- 副校長（総務・教務担当）教務主事　江崎　修央教授
- 副校長（学生支援・厚生補導担当）学生主事　坂牧　孝規教授
- 副校長（寮務・国際担当）寮務主事　橋爪　仙彦教授
- 校長補佐（研究、産学・地域連携担当）研究主事　宮﨑　孝教授
- 校長補佐（サイバーセキュリティ担当）情報メディア教育センター長　白石　和章教授
- 校長補佐（将来計画担当）　窪田　祥朗教授
- 校長補佐（ダイバーシティ推進担当）　豊田　尚子教授

本部報告

令和４年度　本部会務報告

①会議

令和４年６月12日

イ）理事会　9:30～10:30 於母校メディアホール
★出席理事23名　委任状19名

ロ）総　会　10:50～11:30 於母校メディアホール
★出席会員数54名　来賓７名
物故会員慰霊祭 11:35～12:00

ハ）懇親会　12:30～14:30 於鳥羽国際ホテル
★出席会員数61名 来賓９名 学生８名

ニ）支部長会　未開催

②会報発行

令和４年10月１日　会員約3,500名に発送

③鳥羽商船高専連携協力会発足

令和４年４月14日　於母校会議室

＜本会の目的＞

鳥羽商船高専と企業・地域産業界の連携・交流を深めることにより、地域社会の発展に寄与するとともに、本校の教育・研究の振興を図ることを目的として、鳥羽商船高専連携協力会を置く。

＜役員・理事＞（※以下令和５年度名簿）

会　長　菊川　厚　キクカワエンタープライズ㈱ 社長
副会長　西村譲治　協同海運㈱　社長
（鳥羽商船同窓会四日市支部理事）
理　事　菅沼延之　名古屋メッキ工業㈱代表取締役
（鳥羽商船同窓会会長）
同　宮脇幸次　伊勢湾フェリー㈱社長
同　川邉浩史　美和ロック㈱社長
同　平野新一　シンフォニアテクノロジー㈱社長
同　江崎隆夫　㈱鳥羽ヤンマー社長
（鳥羽商船同窓会事務局長）
同　和泉　充　鳥羽商船高専校長
同　江崎修央　鳥羽商船高専教授 副校長･教務主事
（鳥羽商船同窓会副会長）

④事務局主要活動

４月19日　総会案内発送作業
事務局､伊勢志摩支部会員14名＋ボランティア２名参加
会員約3,500名に発送

６月12日　理事会・総会・懇親会
伊勢志摩支部主催

７月～12月　故郷の海を愛する会イベント開催
詳細は10～11頁参照

６月中旬～　同窓会報発行準備着手
事務局、伊勢志摩支部会員

７月29日　母校学生会と懇談
西山会計、江崎事務局長　於同窓会事務局

８月21日　母校３役　校長と懇談
和泉校長、菅沼会長、田中副会長、加塚副会長、江崎副会長（副校長）、江崎事務局長、糸川事務局員　於校長室隣会議室

９月23日　卒業式（本科N､E）修了式（専攻科 海事）
菅沼会長、伊勢志摩支部理事、事務局　式参列
同窓会の活動紹介と資格取得奨励授与式
１級海技士資格取得者８名、TOEIC成績優秀者４名
於メディアホール

10月１日　同窓会報発送作業
事務局、伊勢志摩支部会員13名参加

10月15日　攻玉社同窓会総会
水野東日本支部長　出席

11月19日　西日本支部総会　菅沼会長出席

11月22日　母校在職同窓会員と懇談会
菅沼会長、江崎事務局長、江崎副会長
和泉校長、齊心船長、山野一等機関士　他６名

12月３日　課外活動支援金・報奨金授与式
菅沼会長､三井伊勢志摩支部長､他伊勢志摩支部会員

12月４日　母校海学祭
事務局、伊勢志摩支部会員　珈琲店出店

令和５年３月　東京総会　準備作業
事務局、水野東日本支部長　打ち合わせ

３月18日　卒業式（本科M､I）修了式（専攻科 生産）
菅沼会長、伊勢志摩支部理事、事務局　式参列

［中止］　戦没・殉職船員追悼式

令和5年度　本部会務計画

令和５年４月～令和６年３月

４月～	総会案内　印刷準備・封入・発送
４月～	理事会・総会会議資料作成
５月～	理事会案内　印刷準備・封入・発送
５月13日	攻玉社同窓会総会出席
５月24日	戦没・殉職船員追悼式
６月17日	理事会･総会･懇親会(外国人記者クラブ)
７月～	同窓会報発行準備
７月～12月	故郷の海を愛する会イベント開催 詳細は10～11頁参照

８月以降の活動計画

８月～	同窓会報編集作業
９月22日	卒業式（本科N、E）修了式（専攻科 海事）参列、同窓会入会案内、手続き
10月	同窓会報発行・発送作業（3,500通）
12月２日	課外活動支援金・報奨金授与式
12月３日	海学祭支援、同窓会の模擬店出店
３月15日	卒業式（本科Ｊ）修了式（専攻科 生産）参列、同窓会入会案内、手続き
３月～	会計決算案・次年度予算案作成

令和４年度 会計報告

自 令和４年４月１日 ～ 至 令和５年３月31日

現金・預金　※比較増減＝期末－期首

勘定科目	期首金額	収入	支出	期末金額	比較増減
現金	0			0	0
普通預金計	1,821,023	15,268,066	14,637,466	2,451,623	630,600
定期預金計	21,375,737	3,356,593	8,311,480	16,420,850	−4,954,887
現金･預金合計	23,196,760	18,624,659	22,948,946	18,872,473	−4,324,287

※収入支出の金額は、口座間の振替入出金の金額を計上する必要があり、実際の入出金金額より大きくなっています。

収入の部　※比較増減＝決算金額－予算

科目・内訳	４年度予算	決算金額	比較増減
会費	2,776,211	2,451,872	−324,339
寄付金収入	1,500,000	2,499,900	999,900
スポンサー広告収入	180,000	180,000	0
雑収入	967,500	677,600	−289,900
受取利息	585	167	−418
預かり金処理（会費・名簿等）	0	0	0
前年会計より繰り越し（預金の取り崩し）	672,704	0	−672,704
収入合計	6,097,000	5,809,539	−287,461

支出の部

科目・内訳	４年度予算	決算金額	比較増減
負担金	550,000	446,000	−104,000
総会費	1,560,000	1,339,615	−220,385
会報・会員名簿	920,000	958,671	38,671
対外活動費	234,000	194,110	−39,890
支部活動費	542,000	527,340	−14,660
旅費交通費	535,000	232,920	−302,080
事務消耗品費	245,000	233,389	−11,611
会議費	50,000	18,246	−31,754
会務運営費	371,000	360,500	−10,500
外部委託費	630,000	648,000	18,000
特別予算 1（本校紹介活動等）	130,000	130,000	0
特別予算 2（母校支援）	0	30,000	30,000
特別予算 3（プロコン等支援）	100,000	0	−100,000
雑支出	230,000	15,035	−214,965
支出合計	6,097,000	5,133,826	−963,174

本年度決算は、
[収入の部] 5,809,539 － [支出の部] 5,133,826 ＝ [本部会計収支] ＋ 675,713
コロナ禍により中止される会議等も多く活動が縮小し、支出が減ったことが考えられます。
定期預金より、“母校創基150周年基金”へ寄付を行いましたが、本部会計収支がプラスになったため、
[本部会計収支] 675,713 － [母校寄付] 5,000,000 ＝ −4,324,287
[現金・預金] 資産内訳の増減は −4,324,287 となりました。

令和４年度期初、期末の銀行等の確認を行い、今年度の収支に関しては領収書、各銀行などの出納記録と照合して監査した結果、正確かつ適正であったことを認めます。

令和５年５月９日

会計監査　武部二三男

竹川　俊幸

令和５年度　予算

自 令和５年４月１日 ～ 至 令和６年３月31日

収入の部　比較増減＝令和４年予算－前年実績

科目・内訳	４年度実績	５年度予算	増減比較
会費	1,811,872	2,130,000	318,128
終身会費	640,000	700,000	60,000
寄付金収入	2,499,900	2,690,000	190,100
スポンサー広告収入	180,000	180,000	0
雑収入	677,600	809,900	132,300
受取利息	167	100	−67
預金取り崩し	0	0	0
収入合計	5,809,539	6,510,000	700,461

支出の部

科目・内訳	４年度実績	５年度予算	増減比較
負担金	446,000	600,000	154,000
総会費	1,339,615	1,640,000	300,385
会報・会員名簿	958,671	980,000	21,329
対外活動費	194,110	164,000	−30,110
支部活動費	527,340	527,000	−340
旅費交通費	232,920	780,000	547,080
事務消耗品費	233,389	324,500	91,111
会議費	18,246	20,000	1,754
会務運営費	360,500	360,000	−500
外部委託費	648,000	690,000	42,000
予備費	160,000	300,000	140,000
雑支出	15,035	35,000	19,965
郵貯センター払込手数料		89,500	89,500
支出合計	5,133,826	6,510,000	1,376,174

令和５年度　同窓会役員・理事（改選）

※　黄色は新任　※　灰色は退任
※（　）内数は前回数　※赤字は理事会で承認を得て決定されました

本 部

会　長	1	菅沼　延之	S48N
副会長（3）	3	田中　潔	S52N
		加塚　伸吾	S52E
		江崎　修央	H4M
相談役（3）	3	菅原　昌男	S33N
		藤本　昌之	S42N
		習田　誠至	S55N
会　計（1）	1	中井　一文	H16 I
		西山　明	S50E
会計補佐	1	中井　一文	H16 I
会計監査（2）	2	竹川　俊幸	S42E
		木下　勝	S49E
		武部二三男	S38N
名誉顧問（3）	3	落合　弘明	元同窓会長
		菱田　司	元同窓会長
		田中　三郎	前同窓会長

特別顧問（3）	3	和泉　充	学校長
		江崎　修央	副校長
		伊藤　友仁	副校長
		喜井　健二	事務部長
		小林　正幸	事務部長
事務局長	1	江崎　隆夫	S44E
事務局（9）	11	武部二三男	S38N
		溝井　昇	S42E
		三井　健次	S43E
		濱地　安実	S47E
		山口　伸輔	S48N
		江尻　潜	S48E
		木下　勝	S49E
		西山　明	S50E
		畑　辰幸	S51N
		高木　宏明	S52E
		北端　大志	H8N
学校連絡（1）	2	小島　智恵	H14N
		山野　武彦	H10E

支 部（理事総数50名）

東日本支部　11（11）		
支部長	水野　博之	S48N
理　事	岩田　仁	S38E
	福山　道夫	S41N
	飯島　寿	S41E
	加藤　信一	S42E
	大橋　泰夫	S48N
	奥田　宣夫	S48E
	菅原　秀樹	S51N
	稲益　義久	S51N
	星野　芳昭	S52E
	鈴鹿　文彦	S63N
	亀山　信吾	H1E
	小西　智子	H16N

中部支部　6（6）		
支部長	山口　淳	S61N
理　事	小林　正司	S43N
	宗桧万太郎	S48N
	菅沼　延之	S48N
	加塚　伸吾	S52E
	山川　博之	S53N

四日市支部　6（6）		
支部長	待井　健司	H2N
理　事	室　博也	S55N
	西村　譲治	S59E
	西井　育央	S61E
	伊藤　英樹	H4E
	相良　球一	H6N
	西村　崇	H6I

伊勢志摩支部　16（16）		
支部長	三井　健次	S43E
理　事	溝井　昇	S42E
	江崎　隆夫	S44E
	濱地　安実	S47E
	山口　伸輔	S48N
	木下　勝	S49E
	西山　明	S50E
	畑　辰幸	S51N
	高木　宏明	S52E
	塩野　明俊	S56E
	齋心　俊憲	H1N
	出江　幸重	H3M
	江崎　修央	H4M
	北端　大志	H8N
	橋本　典久	H8E
	小島　智恵	H14N
	中井　一文	H16I

関西支部　8（8）		
支部長	坂田　守	S56N
	習田　誠至	S55N
理　事	村木　国夫	S48N
	田中　潔	S52N
	村田　佳久	S55N
	国安　政幸	S58N
	山本　和之	S59N
	清家　将之	S60N
	福田　美和	H7N

西日本支部　2（2）		
支部長	中野　正義	S41N
理　事	神子　功	S48E

百周年特別理事　1（0）		
理　事	大倉　明人	S48N

同窓会の活動（暦順に掲載）

同窓会の活動は抜粋してご紹介しています。
事務局では、日々の活動を同窓会HPに掲載しています。その他の写真や記事も是非ご覧ください。
tobacmtdousoukai.sakura.ne.jp

令和４年度卒業式（本科N、E）修了式（専攻科 海事）

９月23日（金）雨の中、母校において商船学科卒業式及び専攻科修了式が挙行されました。コロナ禍後、３年目の縮小された卒業式でしたが、今年は来賓の招待者はやや増やされました。在校生、教官方、ご父兄の皆様、多数からの励ましと涙で送られる卒業式に戻るのも近くなってきたように思います。

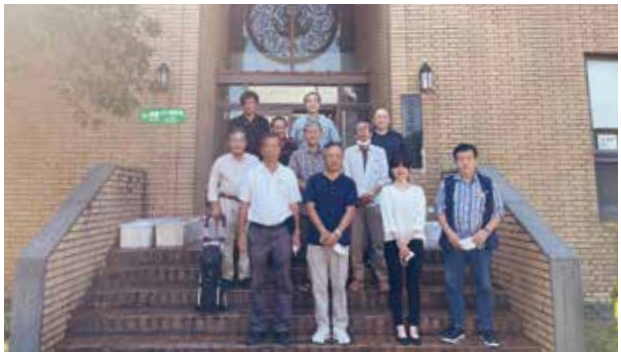
今年は、商船学科航海コース18名、機関コース19名、専攻科海事システム学専攻１名の若鳥たちが飛び立ちました。進路は海上職26名、陸上職６名、進学６名で全員の進路が決定しました。今年の商船学科の求人者数は海上職79社、陸上職393社（工学科系含む）で企業にも人気の鳥羽商船高専です。

式の最後に、恒例のごきげんようの掛け声のもと、投帽の礼が行われ商船学科らしい式が終了しました。

又、式前に同窓会のプレゼンテーションが行われました。プレゼンテーションでは、同窓会の活動紹介と資格取得奨励授与式が行われました。１級海技士合格者８名とTOEIC高得点者４名に、菅沼会長から奨励金が贈呈されました。同窓会は様々な資格取得を奨励しています。後輩の皆様も頑張ってください。

同窓会報　発送作業

10月４日(火)同窓会員3,447名に本年度総会案内を発送いたしました。



アサギマダラが鳥羽金毘羅山に

今年も故郷の海を愛する会と共同で植えた金毘羅宮のフジバカマの花にアサギマダラ蝶が飛来しました。

課外活動支援金、報奨金　授与式

12月３日(土) 海学祭初日

学生会・寮生会・吹奏楽部・藤井研究室・プログラミングコンテストの学生たちに課外活動支援金、高専全国大会やコンテストで優秀な成績を受賞した学生達に報奨金を授与しました。菅沼延之会長、三井健次伊勢志摩支部長、江﨑隆夫事務局長、溝井昇理事が出席しました。学校からも先生方が出席されました。

コロナ禍、若い学生達は負けず頑張っています。

同窓会は、学生たちを応援しています。

第57回　海学祭

12月４日(日) 海学祭

今年は３年ぶりにオープンスペースで開催されました。昨年はオンラインという新たな試みの中開催されました。今年は模擬店も可能となり、学生会を中心に学生たちの活気に溢れた光景が見受けられました。

同窓会は同窓の村田珈琲さん協力のもと、コーヒー店をオープンし、百周年記念館内の資料室を紹介しました。他には、同窓会で保管している懐かしい記念品グッズの紹介をし、保護者の方々や来場された同窓の皆さんとの交流を楽しみました。

コーヒー店の中に「鳥羽丸Last Year Project」の展示スペースも設けられ、コーヒーを飲みながら学生の制作した映像やパネル展示を楽しんでいただきました。

学生会・学生の皆様、教職員の皆様、久々の海学祭ということで、準備から開催まで手探りの中大変だったかと思います。同窓会へのバックアップも感謝しています。同窓会も大変楽しい一日を過ごさせていただきました。伝統が後輩たちに受け継がれ、皆の記憶に残る海学祭になったことうれしく思います。今後も頑張ってください。応援しています。

学生会が作成した第57回海学祭 公式サイトをご紹介いたします。

https://gakuseikai.toba-cmt.ac.jp/kaigakusai/

令和４年度卒業式（本科M.I）修了式（専攻科 生産）

３月18日(土)母校電子機械工学科、制御情報工学科の最後の卒業式が挙行されました。

両工学科としての卒業式は今年が最後で、来春からは学科再編された情報機械システム工学科としての卒業式となります。今年は初めて、新築されたばかりの鳥羽市営サブアリーナのホールで開催されました。当日はあいにくの小雨でしたが、和泉校長、同窓会菅沼会長、中村鳥羽市長の激励と熱いエール、温かい言葉に送られ、若鳥たちが巣立っていきました。

電子機械工学科37名の内、進学５名、就職29名の進路が決まっています。

制御情報工学科では42名の内、進学13名、就職29名。専攻科生産システム工学専攻６名の進路が決まりました。

今年も景気回復の期待で求人社数は300社を超え、企業からの人気も高く期待されています。

令和５年度　総会案内発送

４月18日（火）同窓会員3,493名に本年度総会案内を発送いたしました。

発送作業は、伊勢志摩支部の有志11名、商船学科の学生たち、故郷の海を愛する会事務局と一緒に行いました。海学祭で交流のあった学生たちがボランティアに駆けつけてくれ、賑やかで楽しい封入作業となりました。ありがとうございました。

当案内が届かない方は、住所不明の方々です。お気付きの際は、同窓会事務局迄住所等をお知らせください。

総会と懇親会は、６月17日（土）東京都千代田区丸の内の外国人記者クラブにて12時から開催いたします。関東近郊にお住いの方は奮ってご参加をお願いいたします。

前列右より
濱地（S47E）竹内（S44E）大西（S36N）木下（S49E）
今西（S52E）
２列目
江﨑（S44E）長谷川（S44E）溝井（S42E）丸島（S50E）
高木（S52E）
３列目
三井（S43E）商船学科のみなさん

令和５年度　理事会・総会・懇親会　開催

６月17日（土）皇居前二重橋ビルの日本外国特派員協会（FCCJ）通称“外国人記者クラブ”において、同窓生61名、来賓４名の皆様が出席され盛大に総会が開催されました。

当日は梅雨の中休みで蒸し暑い一日でしたがコロナが第５類に移行され久しぶりの楽しい一日でした。

菅沼会長は前日の夕方まで出席の意向でしたが、体調不良でドクターストップがかかり止む無く欠席しました。会則に則り、当日の理事会は加塚副会長、総会は田中副会長が会長代理として遂行し、理事会、総会を無事終了いたしました。

今年は役員改選の年で、会長の立候補者が現菅沼会長一名であった為、理事会満場一致で菅沼延之（S48N）氏が３期目の再選で選ばれました。この場に菅沼会長がいなかったのは残念ですが一日も早い復帰を祈念いたします。

理事会で承認された審議事項は総会で皆様に報告されました。

来賓は攻玉社から田村事務局長、森監事。全船協から広重会長。そして商船高専５校の新練習船建造にあたり、多大なご支援を賜った赤池誠章（あかいけまさあき）参議院議員（比例全国区選出）の出席をいただき、皆様からご祝辞をいただきました。

懇親会では東日本支部のお世話でピアノ、フルート、ウッドベースの生演奏の中、昔話に華を咲かせました。終盤に生伴奏で船歌、校歌を歌いました。

今年の総会は、母校から“前川製作所”に就職した若い二人が参加し、受付も担当してくれました。制御情報工学科卒、商船学科機関コース卒のお二人です。一人は、小学５年からお母さんと妹さんと共に故郷の海を愛する会のイベントに参加し、妹も商船学科航海コース３年に在学中です。我々に負けない商船家族です。

今同窓会は若い人たちの参加が少なく苦慮しています。来年６月９日には、名古屋で総会が開催されます。たくさんの参加を期待しています。

理事会

水野東日本支部長　挨拶

受付

次回開催地　山口中部支部長　万歳

同窓会設立100周年記念事業について

以下、３つの記念事業を予定しています。

1）練習帆船模型「あまき」修復
2）100周年記念誌作成
3）鳥羽商船高専創基150周年記念
－高専創立60周年･同窓会設立100周年記念－ 式典
令和７年９月14日 日曜日（予定）

今回は、“練習帆船模型「あまき」修復”プロジェクト発足の経緯と進捗状況について報告します。

プロジェクト発足の経緯

令和３年12月11日　同窓生の主催する「故郷の海を愛する会」のイベントで見学に訪れた荒天航泊実験棟の実験用水槽の片隅に、埃を被りマストは折れ、帆は千切れ、まるで難破船か、幽霊船のような練習帆船模型「あまき」を見つけ悲しくなりました。写真に撮り同窓生に見せると、誰もが「何とかしたいね」「修復しよう」と意見が一致しました。伊勢志摩支部理事の賛同を得て支部事業としてプロジェクトが発足しました。

後に、伊勢志摩支部の“創基150周年記念事業”にとどめず、本部同窓会の“創基150周年・同窓会設立100周年記念事業”として実現することになりました。

進捗状況

令和４年８月１日　学校側に帆船模型持ち出し許可を頂き、竹内大助氏宅に運び入れプロジェクトの一歩を踏み出し本格修復準備に入ることになりました。

プロジェクトリーダーは、竹内大助氏（S44E）にお願いし、母校元副校長で処分寸前の練習帆船模型「あまき」をまさしくサルベージされた伊藤政光先生にご指導をお願いしました。製作には３名の同窓生が協力してくれています。帆布類は三井氏（S43E）、救命艇は長谷川氏（S44E）、天馬船は小松氏（S43E）が担当しています。

皆さんのご協力を得て令和７年に迎える“**創基150年周年・同窓会設立100周年**”に間に合うように修復を完結したいと思います。

まずは、埃や汚れを落とし清掃、欠損部分の調査、マスト、帆、修復材料調達、修復方法試作から始めました。

プロジェクトの基本法方針は、同窓生の手で修復することに意義があり、なるべく外注はせず材料や消耗品工具の購入に止め、ボランティアで完成させたいと思います。

同窓会HPで詳しく報告しています
「練習帆船模型「あまき」修復
プロジェクトについての報告 その２」

現在の状況

６月にとうとうMain Mastを抜き出しました。その前にスケッチをして索具の連結を図に起こしたかったのですが、何しろボロボロでよく判らない接続が大多数、諦めるのに時間が掛かったのです。帆船のRope Workを勉強して作って行きましょう。それでも模型本来の形を尊重したくFore Mastは残して参照しながらMain Mastは別現場で艤装中、現在の造船現場のようですよね。1の写真の船尾天井には、化粧したハウスのブロックと小松氏新作の伝馬船を仮置きしています。

1 原形を留めるFore Mastと磨いた船尾側
2 分解掃除塗装して艤装中のFore/ Mizzen Mast
3 本体現状

NPO法人 故郷（ふるさと）の海を愛する会　会長　溝井　昇（S42E）

鳥羽商船同窓会伊勢志摩支部の有志が立ち上げた「故郷（ふるさと）の海を愛する会」は、県内の小中学生に世界に繋る船や海を知ってもらおうと活動を開始して15年目になります。

2020年度以降、新型コロナウイルスの影響により計画したイベントの一部又は全部の中止が続きました。応募数の減少は見られませんでしたが、募集定員は従来の半数としています。

今年度はコロナウイルスの影響を受けることなく、計画した４回のイベントをすべて実施できるものと期待しています。

2022年度　事業報告

◇事業名「海から始まる物語 IN 2022」

2022年度はコロナ禍でのイベント開催３年目となりました。計画していた４回の内２回は感染拡大の影響を受けて中止せざるを得ませんでした。10月、12月に開催のイベント③④は感染者数が減少傾向に入ったことから感染予防対策を十分行い、安全安心を第一に開催いたしました。イベント③④の内容は下記の通りです。

イベント①
JMU津造船所見学と
鳥羽商船高専の練習船で体験航海

コロナ拡大により中止。

イベント②
四日市港の見学

コロナ拡大により中止。

イベント③　10月９日実施
潮騒の神島にわたり、神島灯台・伊良湖水道の見学と神島の自然観察をする。

小中学生33名が鳥羽市で集合し、チャーター船で神島に渡りました。神島灯台の役割や機能について説明を受け、内部を見学し上部からは伊良湖水道を通行する大型船を眺めました。島内を歩いて一周しながら海を渡る蝶アサギマダラを探しました。活動に際し鳥羽海上保安部には灯台の解放や解説など多大なるご協力をいただきました。

イベント④　12月10日実施
遊んで学ぼう。商船学校の歴史と船と海の話

小中学生33名が参加しました。午前中はマルチメディア教室にて『校祖 近藤真琴物語（卒業生塩野氏）』『身近な海岸の可燃ごみを利用したスマホ充電器の作成と海岸での雷のお話（古森鳥羽商船高専教授）』の講演を、質疑や体験も交えながら聴かせていただきました。

昼食時はクリスマスイベントを兼ね、ビンゴゲーム大会を行い参加者全員に粗品をプレゼントしました。

午後はグループに分かれて学校施設を巡り「商船科・航海コース」「商船科・機関コース」「制御情報工学科」「電子機械工学科」それぞれの学科教官や学生に特色を生かした興味深い講座を体験させていただきました。鳥羽商船高専の特色や魅力を発信できたように感じています。今後もこの取り組みは続けていきたいと思います。

◇その他の活動として

①「アサギマダラを呼ぶプロジェクト」会員で鳥羽市内、学校内にフジバカマを移植してアサギマダ

ラの飛来を待っています。金毘羅宮の一角に移植したフジバカマの花に数頭のアサギマダラが飛来しました。

②「セイラビリティ伊勢の活動を支援」伊勢市夏休み子供体験ツアー及びみなと小学校体験実習で、ハンザクラス型ヨットによる体験セーリングのインストラクターとして協力しています。

③学校の練習船体験航海の募集に協力しました。

◇収支について

2022年度に開催した事業には、日本中小型造船工業会、全日本海員組合、山縣記念財団から助成金、鳥羽商船同窓会、同窓会伊勢志摩支部、会員の皆様から寄付金を頂き２回の事業を無事開催することができました。

各団体、同窓会、会員の皆さまに厚く御礼申し上げ、事業収支を下記の通りご報告いたします。

収　入	金　額	支　出	金　額
受取会費	80,000	事業費	1,144,974
事業収益	29,500	管理費	505,671
受取寄付	537,000		
受取助成金	868,000		
その他	4		
合　計	1,514,504	合　計	1,650,645
		当期正味増額	−136,141
		前期繰越額	449,165
		次期繰越額	313,024

2023年度 事業について

2023年度は「海から始まる物語 IN 2023」と題し４回のイベントを計画しています。

イベント①　７月26日
JMU津造船所見学と鳥羽商船高専の練習船で体験航海

JMU津造船所で大型船の建造工程を見学し、船の大きさを体感する。鳥羽商船高専の練習船に乗船し、伊勢湾体験航海をして、航行する大型船を近くで見る。船上では船の設備、構造、機関等の解説を受け、船の操舵、ロープワーク等を体験する。

イベント②　８月２日
海の博物館見学と鳥羽商船高専の練習船で体験航海

鳥羽市の海の博物館で見学と体験をする。鳥羽商船高専の練習船に乗船し、伊勢湾体験航海をして、航行する大型船を近くで見る。船上では船の設備、構造、機関等の解説を受け、船の操舵、ロープワーク等を体験する。

イベント③　10月７日
太平洋フェリー見学と名古屋港見学

太平洋フェリー船内見学と名古屋港の南極観測船ふじの船内見学、ポートビル施設で名古屋港の全体を体験する。

イベント④　12月９日
遊んで学ぼう。商船学校の歴史と船と海の話

鳥羽商船高専の校内で、船や海の講演を聞き、模擬操船や大型エンジンの発停を体験する。他にコンピューターやロボットについて講座を受講・体験する。

終わりに

鳥羽商船高等専門学校が小中学生の進路として視野に入るよう、広く知ってもらうためにイベントは継続していきたいと思っています。同窓会皆様のご協力とご支援を期待しています。

会員募集中

故郷の海を愛する会は子供たちにもっと世界につながる船や海を知ってもらおうと活動を続け15年目となりました。今後とも継続して活動を行えるよう、私たちの活動に賛同し、協力していただける方を募集中です。会のブログをぜひご覧ください。正会員は年会費1,000円です。また、ご寄付も受け付けています。

会費・ご寄付

振 込 先：ゆうちょ銀行
振込方法：振込取扱票にて振込
口座記号／口座番号：
　00830 9 183524（右詰めで記入）
加入者名：
　漢字…(特非) 故郷の海を愛する会
　カナ…トクヒ) フルサトノウミヲアイスルカイ

活動ブログ
http://blog.canpan.info/umiwoaisurukai/

団体情報
https://fields.canpan.info/organization/detail/1882169442

2023年 最新イベントより

学校だより

年間行事やコンテスト受賞紹介は抜粋してご紹介しています。その他の行事やコンテスト詳細は、学校ＨＰからご覧いただけます。

年間行事（暦順に掲載）

第51回商船学科卒業証書授与式並びに第15回専攻科（海事システム学専攻）修了証書授与式を挙行

令和４年９月23日（金）、第51回商船学科卒業証書授与式と第15回専攻科（海事システム学専攻）修了証書授与式を挙行いたしました。

授与式では、和泉校長から商船学科卒業生36名に卒業証書、専攻科（海事システム学専攻）修了生１名に修了証書と学位記が手渡され、激励の言葉が送られました。式の最後には、白い制服姿の卒業生全員が一列に並び、「ごきげんよう」の挨拶とともに、帽子を宙高く投げる伝統の別れのパフォーマンス（登檣礼）を実施し、晴れ晴れとした姿で学び舎から巣立っていきました。

第34回電子機械工学科及び第31回制御情報工学科卒業証書授与式並びに第17回専攻科（生産システム工学専攻）修了証書授与式を挙行

令和５年３月18日（土）、第34回電子機械工学科及び第31回制御情報工学科卒業証書授与式並びに第17回専攻科（生産システム工学専攻）修了証書授与式を鳥羽市民体育館サブアリーナで挙行いたしました。

平成31年度に電子機械工学科及び制御情報工学科が統合し、新学科の情報機械システム工学科ができたことにより、今年度の電子機械工学科及び制御情報工学科の卒業生たちがこの２学科最後の卒業生となります。

令和５年度本科並びに専攻科（生産システム工学専攻）入学式を挙行

令和５年４月５日（水）、令和５年度入学式を挙行いたしました。今年度は、商船学科41名、情報機械システム工学科83名、合計124名の本科新入生、さらに専攻科生産システム工学専攻に10名の進学者、専攻科１名を含む３名の留学生を迎えました。和泉校長から式辞が述べられた後、情報機械システム工学科の新入生代表と専攻科生産システム工学専攻の進学者代表それぞれから新しいスタートにあたっての抱負が述べられました。

各種コンテスト

高専ロボコン2022東海北陸地区大会にてデザイン賞＆特別賞を受賞！

令和４年10月23日（日）、第35回アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2022　東海北陸地区大会が３年ぶりに対面で、三重県鈴鹿市で開催されました。

今年度の競技課題は「ミラクル★フライ～空へ舞い上がれ！～」。２分30秒の試合の競技時間中に、ロボットが「紙飛行機」を飛ばし、高さや面積の異なる、テーブルや滑走路（長机）などにランディングさせ、得点を競う競技です。本校からは、２チームが参加しました。

パソコン甲子園2022のモバイル部門にてベストアイデア賞を受賞！

令和４年11月５日（土）～６日（日）に開催されたパソコン甲子園2022において、本校学生が制作したアプリがモバイル部門にてベストアイデア賞を受賞しました。コンピュータ理工学が専門の会津大学等によって主催・運営されるパソコン甲子園は、高校生と高等専門学校生（３年生まで）がプログラミング能力をはじめ、情報処理技術におけるアイデアや表現力等を競い合い、その経験を通して知識と技術を高めるICT分野の全国大会となります。

高専GCON2022にて高専60周年記念賞を受賞！（高専GIRLS SDGs × Technology Contest）

令和５年１月15日（日）に開催された高専GCON2022において、本校学生チームが本選に出場し、高専60周年記念賞を受賞いたしました。

高専GCONは、参加学生がSDGsの理念を理解し、日頃行っている研究や学習がSDGsの観点から社会課題に対してどう貢献できるか考えることにより、未来の研究者・技術者としてより成長することを期待するものです。今年度は、60周年記念の第一回大会として開催し、90チームものエントリーがあり、本選では10チームのプレゼンテーション、質疑審査が行われ、いずれも質の高いプレゼンテーションで、審査委員の皆さまから高評価を得ました。大会の様子が日経チャンネルで紹介されています。

日経チャンネル

https://channel.nikkei.co.jp/kosengcon2022/

観光甲子園にてグランプリを受賞！

令和５年２月５日（日）に開催された観光甲子園2022の空飛ぶクルマ部門において、本校学生チーム「チーム鳥羽」が予選にエントリーした94チームから、予選・準決勝を勝ち抜き、決勝大会でグランプリを受賞しました。全国の高校生がSDGs思考で観光事業計画を競うコンテストで、「SDGs修学旅行部門」と、「空飛ぶクルマ部門」の2つの部門があります。

「チーム鳥羽」は後者に出場し、観光プラン「世界に一つだけの海鮮丼」を提案しました。新幹線駅・空港がないだけでなく、南北に長いことから県内移動に苦労する三重県の観光課題を空飛ぶクルマによって一気に解決する事業アイデアです。

観光甲子園

学生によるプレゼン動画は観光甲子園公式HPで視聴いただけます。

https://www.nexttourism-contest.jp/

地域活動・地域貢献

伊勢志摩海洋教育研究アライアンス協定締結式および海のシリコンバレー シンポジウムに出席しました

令和４年10月１日（土）に鳥羽市体育館サブアリーナで伊勢志摩海洋教育研究アライアンス協定締結式および海のシリコンバレーシンポジウムに参加しました。

伊勢志摩海洋教育研究アライアンスは、伊勢志摩地域に拠点がある地方公共団体、高等教育機関、公的研究機関、地元企業が海洋・水産に関わる教育活動、研究活動及び地域連携活動を通し、地域社会の発展に寄与することを目的としたプラットフォームです。

海のシリコンバレーは、鳥羽を中心とした伊勢志摩地域に海に関わる地方公共団体、高等教育機関、公的研究機関、地元企業が立地し、全国で希なインフラ環境があることを受け、鳥羽市長が提唱しているものです。

鳥羽丸船内ツアー（360°パノラマビュー）

Googleストリートビュー（インドアビュー）で練習船鳥羽丸の船内を自由に移動して、見渡すことができます。普段は見ることができない鳥羽丸の船内の様子をぜひご覧ください。

教職員人事

採用

商船学科助教	谷水　聖奈
総務課人事労務係	谷　　槙悟
学生課教務係	三反﨑柊太
テクノセンター技術職員	中北　創太

転入

商船学科准教授	山口　康太
事務部長	喜井　健二
総務課長	松　　昌志
学生課教務係長	谷口　周資
総務課財務・経理係主任	中澤　利之
総務課調達係	小林　文香

同窓生の本校教職員

齊心　俊憲	（H1N）	鳥羽丸船長
大野　伸良	（S56E）	鳥羽丸機関長
山野　武彦	（H10E）	鳥羽丸一等機関士
小島　智恵	（H14N）	商船学科准教授
山口　康太	（H23E）	商船学科准教授
谷水　聖奈	（H27N）	商船学科助教
出江　幸重	（H3M）	情報機械システム工学科教授
江崎　修央	（H4M）	情報機械システム工学科教授
中井　一文	（H16I）	情報機械システム工学科准教授
竹内　晃輔	（H7I）	学生課専門職員
濱口　沙織	（H17I）	テクノセンター技術専門職員
谷水　志帆	（H16N）	テクノセンター技術専門職員
吉岡　裕也	（H16E）	テクノセンター技術専門職員
山口　雄大	（H20M）	テクノセンター技術職員
井田　雄人	（H22M）	テクノセンター技術職員
中北　創太	（R3I）	テクノセンター技術職員

支部だより

東日本支部　　支部長　水野 博之（S48N）

本部・支部の皆様には日頃から、東日本支部活動にご支援・ご協力をいただき誠にありがとうございます。おかげさまで、支部長を拝命してより約１年半、なんとか無事に活動を進めてくることが出来ました。以下、一端を紹介させていただきます。

まず、横浜港カッターレースについては、昨年の５月22日開催時のわが校の２艇は予選で下位に低迷しましたが、今年は５月21日に開催され、２艇のうち超シニア艇がなんと予選１位と大いに気を吐きました。惜しくもタイム差で決勝は進めませんでしたが、その奮闘が来年以降の出艇メンバーに勇気を贈るに違いありません。

次に、支部総会ですが昨年10月15日に３年ぶりにナビオス横浜で開催いたしました。しかしながらハガキの出席回答が少なく、名簿片手に電話でぎりぎりまで出席をお願いしましたが、最終的に17名の出席となり力不足を実感しました。今年は本部総会が東京開催で、支部総会は開催しませんでしたが、来年以降はメインの支部行事ですので盛会めざして注力してまいります。

また、攻玉社同窓会の総会に、昨年度秋と今年度５月13日と２回に亘り出席致しました。昨年は初めて出席したので若干緊張気味でしたが、さすがに兄弟校でありウェルカムの応対をしていただき、楽しく過ごすことができました。今年は、２回目で理事長、会長、事務局長と大いに語り、攻玉社の発展ぶりから近藤翁の教育思想の凄さに感嘆いたしました。

最後に、今年５月24日に横須賀で執り行われた戦没・殉職船員追悼式に参列しました。今回は50回目という節目にあたり、天皇・皇后陛下もご臨席されおごそかな空気のなか、当同窓会の代表としてしっかり殉職船員の方に想いをいたし、献花をしてまいりました。

以上活動を、昨年７月７日、今年２月９日、５月９日に理事会を開催し、理事各位の合意をもとに進めてきました。また今回総会をもって、飯島さんと亀山さんが理事を退任され、加藤さん、鈴鹿さんが就任されました。退任理事の皆さん、どうも長い間ありがとうございました。新たに理事就任の皆さん、どうぞよろしくお願いします。

併せて、６月17日に東京開催の本部総会に多くの皆さんにご参加いただき無事開催となりました。開催支部を代表して御礼申し上げます。お忙しい中、遠方からご参加いただき誠にありがとうございました。

中部支部　　支部長　山口　淳（S61N）

まず中部支部においてはコロナを吹き飛ばすような良いニュースもありました。令和４年11月の叙勲により小林司（S43N）氏が旭日小綬章を、褒章により横山良一（S43N）氏が黄綬褒章を受章されました。大変喜ばしい事です。今後も両氏に続き受章者が母校の同窓会より多数出る事を期待しましょう。

さて、約３年間我々を苦しめてきたコロナ禍もようやく終息の時を迎えようとしている昨今ですが、同窓会中部支部としての活動は令和３年度に比べ行動等の制限が若干緩和されたとはいえ、昨年度に引き続き支部総会及び懇親会の開催は残念ながら断念せざるを得ませんでした。

令和４年６月に開催された本部総会・懇親会に参加して、年１度とはいえ懇親を深める事ができる総会・懇親会の意義を改めて実感しました。

令和５年５月予定されているコロナ感染症の分類の引き下げにより、予想される新しい生活様式に対応しながら、中部支部としては同窓会の活動を継続していく所存です。同窓生の皆様には積極的にご参加いただき、令和５年度は例年恒例の行事が盛大に開催できることを切に願うばかりです。

令和４年度活動報告

令和４年５月13日　中部支部定時総会 開催中止
５月15日　第47回名鳥会ゴルフコンペ
　　優勝：小林司（S43N）準優勝：森内芳卓（S53N）３位：西尾栄紀（S58N）
８月10日　練習船銀河丸　飲料差し入れ
９月１日　練習船青雲丸　飲料差し入れ
11月５日　第48回名鳥会ゴルフコンペ
　　優勝：町裕次（S52N）準優勝：北地幸二（S54N）３位：浅野清（S55N）
令和５年１月13日　練習船銀河丸　飲料差し入れ
２月上旬　めいよう会（全船協・海洋会・若葉会）合同懇親会　開催中止

四日市支部　　支部長　待井 健司（H2N）

令和４年度の四日市支部活動について、ご報告いたします。

令和２年１月にWHOが新型コロナウイルス感染症にかかる緊急事態宣言を発表して以来、同窓会活動も思うように行うことができておりませんでしたが、令和５年３月10日(金)に「アサヒビアケラー四日市」において、四日市支部役員会を開催いたしました。

３年ぶりとなる役員会でしたが、11名の役員の皆様にご出席いただき、楽しいひと時を過ごすことができました。ご出席いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

支部役員会では、支部活動報告、役員改選、支部総会の開催についてご審議いただき、その結果、令和５年度支部総会については、新型コロナウイルスが５類に引き下げられた後の影響が見通せないことから、残念ながら中止を決定しました。

来年度は是非開催したいと思いますので、四日市支部会員の皆様におかれましてはご理解のほどよろ

しくお願いいたします。

また、８月６日(日)に四日市港において「四日市港まつり」が開催されます。

「四日市港まつり」では、カッターレース大会や各種イベントが予定されており、同窓生も多数参加されますので、是非ご来場ください。

《令和５年３月10日 四日市支部役員会出席者》

石垣三郎（S37N）室　博也（S55N）山木　聡（S59N）
西村譲治（S59N）笠松　伴（S60N）西井育央（S61E）
待井健司（H２N）伊藤英樹（H４E）西村　崇（H６I）
岡山雄一（H11E）犬飼和孝（H13N）　　（敬称略）

伊勢志摩支部　支部長　三井 健次 (S43E)

令和４年度活動報告

1．同窓会定期総会・理事会は令和４年６月12日母校で開催され、その後鳥羽国際ホテルで懇親会が執り行われ61名が参加した。
2．商船学科卒業式（令和４年９月23日）が母校で、工学科卒業式（令和５年３月18日）は鳥羽市営サブアリーナで開催された。コロナウイルス感染対策の為、大幅に縮小しての卒業式であった。伊勢志摩支部理事が出席した。
3．NPO法人故郷の海を愛する会と協力し、「アサギマダラを呼ぶプロジェクト」を推進、鳥羽ライオンズクラブの企画に協力し、金比羅宮境内約８平方メートルに植栽、多数のアサギマダラ蝶が飛来した。母校記念館前にもプランター15個で育生した。
4．帆船模型「あまき」修復を計画し、来る母校創基150周年・同窓会設立100周年に向けて伊勢志摩支部記念事業としてスタートした。後に、同窓会の事業に格上げして完成させることとなった。

令和５年度活動計画

1．同窓会定期総会（６月17日東日本支部開催予定）
2．卒業式に出席し、同窓会会費納入促進プレゼンを行う。
3．NPO法人故郷の海を愛する会への協力
「アサギマダラを呼ぶプロジェクト」
今年度もフジバカマ苗を10個のプランターに株分け育生し、記念館前に設置する。
4．同窓会設立100周年記念事業と格上げされた、帆船模型「あまき」修復作業に協力する。
5．同期会開催奨励金制度は年間５組。
支給額￥20,000で継続する。
6．海学祭への助成金￥50,000を計上した。
コロナ禍が沈静化し、通常の海学祭となれば模擬店出店に協力する。

関西支部　支部長　坂田　守 (S56N)

皆様、コロナも一段落し、以前の暮らしを取り戻しつつありますが、いかがお過ごしでしょうか。ここ数年、支部総会の開催もできない状況でしたが、今年度は年末に向け準備して参ります。

関西支部幹事会から次のとおり報告します。

支部長交代について

S55N習田関西支部長におかれましては、大阪湾水先区水先人会の業務繁忙及び同会規則によりコロナ禍での会合の参加について制約が多いとのことで、支部幹事会に「支部長の任を退きたい」旨申し出があり、幹事会において、S56N坂田守氏に後任をお願いしたところ、お引き受けいただけることとなりました。坂田氏は、本校航海学科卒業後、大阪の港運会社である近畿港運株式会社一筋に務められ現在同社の取締役としてご活躍中です。

本来、支部総会において決議すべきところですが、このご時世のため幹事会での決定としてご報告いたします。

令和５年度支部総会について

例年、12月に開催しておりました支部総会について、今年度は12月初旬に神戸で開催する予定で検討いたします。追ってご案内いたします。

関西支部幹事会事務局　國安 政幸（S58N）

新支部長挨拶

皆様、支部長を拝命いたしました坂田です。

今年の支部総会は、12月３日(日)12時頃から神戸で開催する段取りをしております。近づきましたらご案内いたします。よろしくお願いします。

西日本支部　支部長　中野 正義 (S41N)

当支部は至って広域ではありながら、支部会員数が小規模なのが特徴ではあります。コロナ禍に於ける【現在に至る活動実績】と、本年度以降の【活動計画】に付き、次の通り報告いたします。

現在に至る活動実績

極めて長期にわたるコロナ禍に依り、当支部に於いても遺憾ながら、行事の計画が立てられない状況にあったが、支部会員の要請に応え漸(ようや)く11月19日(土)～20日(日)に支部総会・懇親会を霧笛の聞こえる“海峡ビューしものせき”で開催することが出来ました。

出席者（敬称略）は福岡、佐野、太田、片岡（S33N）、加藤（S35E）、山下（S41E）、中野（S41N）、横井（S48N）、神子（S48E）、河本（S55N）、柴田（S56E）の11名に加えて、菅沼会長（S48N）の参加を得て、合計12名となりました。

前後しますが、西九州新幹線（博多～長崎）が９月23日に開業を記念して、“長崎ベイサイドフェスティバル”が10月27日～31日に開催され、12年振りに“日本丸・海王丸”の両船が長崎港に寄港したので、支部会員有志が見学致しました。

活動計画

数度の理事会に於いて、計画を練っています。

西日本支部総会を“海峡ビューしものせき”にて11月18日(土)～19日(日)実施の方向で検討を行います。諸般の事情で変更も有りうるが、成るべく早く周知いたします。

尚、本年度新年会開催の検討もしましたが、コロナ禍で断念致しました。

投稿記事

国立八期生の…クラス会あれこれ その②

私達、国立八期生は大半が昭和18年から17年、16年生まれと跨（またが）っており今年80歳を超えました。

卒業後60年以上を経て、あるものは船長、機関長として世界を駆け巡り、ある者は“君をとろうか三千石取ろか、なんの三千石君を取ろ”と傾城（けいせい）の美女に魅かれ陸上へと転身し、又会社を興し一国一城の主となった者、話を聞くとその生きてきた航跡は多岐に亘り、今は人生の第三ステージを生きていることが判ります。

そして寂しい事ですが最近になり病を得る者、鬼籍への航海に旅立つ級友が多くなってきました。

ここまで生きてきた私達商船出の心の中は、海技知識を求めて猛勉強した心の柔軟な時の航海科、機関科の専門知識とそれを支える一般教養によって培われた感性は、潮の香りが抜けた今でも生きていると感じます。

現在と異なり当時学んで活用した知識はまさにアナログでした。航海科ではジャイロコンパスは既に主流になっていましたが、マグネットコンパスはいざというときのために存在の重きをなして鎮座していました。そのころレーダーも出始めていましたが船位を得るのは天測が主流でした。水平線が辛うじて視認できて星が光りを増してきたころ、数分以内にすばやく六分儀で狙った星を水平線まで降ろして高度を測る作業を数回繰り返す。

航海表と天測歴を手元に全集中力を傾注して計算を繰り返す。初めのころ１時間以上もかかっていた計算が15分位で済むようになっていました。今では車で常時、瞬時に位置を捕捉できるのと比べて隔世の感があります。海図に記入したインターセプトの線が一点にぴたりと交わると「ヤッター」という快感を得られ、陸地近くになるとレーダーで得た船位と比較し、その精度を比べ自分の専門知識の職人技？で遊んでいました。自分の精度に自信が持てると沖縄の南方にある赤尾嶼の海図の位置は少しおかしいなどと思ったりしていたもので、海技から得た記憶が体から潮気が抜けた今も残っているのを感じます。

先日テレビの日本の鉄道の底力という番組で世界の最高峰の水準にある新幹線の全遅延時間はたった12秒とのこと。運転士は決められている途中のダイヤに合わせて秒単位で到着するには運転席に置いたアナログの懐中時計と、時間ごと変わる外の景色を組み合わせて時間の推移を把握しているとのことでした。時代を問わず専門の職人技は共通であると感じた次第です。

専攻科の後半国家試験に向け皆猛勉強に打ち込んでいる時、目的が明確で切羽詰まるような勉強でありましたがその陰で新しい知識を得る楽しさを心の底から感動をもって感じていました。

その様な柔軟で貪欲な若い感性が育まれたのは厳しく規則正しい寮生活の中にあって、心を自由に遊ばせた鳥羽の地の豊かな自然、夏の夕方、油を流したような凪（なぎ）の海面に伝馬船を漕ぎ出し入り江の奥に咲き乱れる山百合を摘み、産卵のため磯に押し寄せるクサフグを飽きずに眺め、夜にはまだ沢山いた蛍を蚊帳（かや）の中に放して楽しみ、鳥羽駅から富士山を遠望できた（松阪在住の大西君によれば日和山ではないか）美しい豊かな自然。期末試験の終わった夜、突堤を散歩していた高橋卓君が試験の結果が不本意で悔しいといきなり大声を出して裸になり、海に飛び込みました。真っ暗な海中を夜光虫が作った鮮やかな人型が進む幻想的な光景は、今も心に焼き付いている忘れられない記憶です。当時は気が付きませんでしたが自由に心を遊ばせる専門以外の知識と、それを与えてくれた教官の方々のお陰であると60年を経た今、強く感じます。

規則正しい寮生活の自由時間は若いエネルギーと好奇心に押されあちこち行きました。移動手段は専ら無銭旅行、仲間内でヘッドといわれたヒッチハイク。偉そうに親指を挙げて待つのではなく、通りかかった車にぺこりと帽子を脱いで頭を下げると多くの車が止まってくれて、行く先が合えば乗せてくれました。中には鳥羽へ帰るタクシーを捕まえて「すいませんついでがあったらのせてください」と言って成功した剛の者もいました。級友の高橋、石川君は九州一周を成し遂げたと聞き、私も東京まで帰ったことがありました。

確か沼津付近だったかと記憶していますがドライブインで乗り継ぎのトラックを探していると、あんたらは“鳥羽商船”かそれなら江藤智夫を知っているかと声をかけられました。「ハイ」と答えると事情を知って、休憩所ひと眠りして待って居ろと言って東京行きのトラックを探してくれた上、食事をごちそうされたことがありました。

尾鷲のヤーヤ祭という夜に行われる奇祭を小出哲夫君と見に行ったときは、市役所や警察などに行き「明日一日働くから今晩泊めてください」と頼みましたがどこも今日は忙しいからと丁重に断られました。最後に道で出会った方にお願いすると快く泊めてもらうことが出来ました。小学校の玉置徳二校長先生でした。私は今夜、句会があるからと美しい娘さんに案内をさせ、寒いから体を温めてからと酒まで飲ませて送り出してくれました。２月の寒い夜、家々の軒先に丸太を格子に組んで、備えた勇壮な祭りを堪能させてもらうことが出来ました。

翌日の祭りの舞台でそのお嬢さんが尾鷲節に合わ

せた法被姿での踊りと、ご家族のご好意をいまだに忘れることはありません。

石鏡（いじか）まで高橋卓君とスケッチに出掛けた時、当時バス路線がなく、連絡船に乗ってしまってから往復の作業の手伝いをするから乗せて下さいと頼むと黙って乗せてもらうことが出来ました。行った先は外部の人に接することは珍しかったような人里離れた場所で、道端の泉で賑やかに洗濯をする少女たちがいました。万葉集にある“物部の八十娘子らが汲み乱ごふ寺井の上の堅香子の花（もののふの、八十おとめごらが、くみまごう寺井（てらい）の上のかたかごのはな）”を彷彿（ほうふつ）させる光景でした。洗濯をする少女たちに道を尋ねましたが、皆黙って下を向くばかりで答えてはくれませんでした。又、安乗崎まで一級上の渡辺欣一さんと出かけた際、薩摩芋を満載した荷車が坂道で難儀しているのを見て、二人で坂の上まで押してあげたところお礼に芋を沢山頂きました。どうしようと考えた挙句、先輩は道端にあった食堂に行きおばさんに「すみませんこれをふかしてもらえませんか」と頼み昼食にした覚えがあります。

又、夏休み前どこかの学校の先生方が水泳訓練に来て宿泊したことがあります。皆若い女の先生が入浴する姿を垣間見ることを想像して、胸をときめかせていましたがその先を読んだ者がいて翌日荒縄に空き缶をぶら下げた“鳴子”が仕掛けてあったのを見ました。ただし鳴子が役に立ったかどうかは不明です。このようないたずらをするのは焼き飯坂での人形事件の下手人の斎藤、佐藤両君と踏んでいましたが、60数年後の今年斎藤君に確かめた所自分たちではないという事でした。

伊勢湾台風により校舎が被害を受けた際復旧工事に来ていた人たちの寝ているところに“ストーム”を仕掛けたのも斎藤君達だったようです。寝静まった頃を見計らい、バケツを叩きながら何度も大声を上げるのです。翌朝、眠れなかった工事の人達が“被害”を訴え出て生徒全員が食堂に集められました。温厚な小田教官が、このような人に迷惑をかけるようなことは決してしてはならないと熱く諭されました。若い時には羽目を外した彼は、後年会社を興し一国一城の主となっています。そして佐藤要君は“法螺吹（ほらふ）き海月（くらげ）の航跡”という誠に愉快な自叙伝を上梓（じょうし）しています。小田教官には私も窮地を救われた経験があります。学年末の試験を前に、君たちの中で此度行われる朝熊山登山競争で10位以内に入れば無条件で進級させるとの発言がありました。進級が怪しかった私は必死で頑張り堅神村の登り口では後ろから数えて10番位でしたが、なんとゴールの内宮では10位に入り居並ぶ教官方を驚かせましたがお陰で無事進級が叶いました。

時に若さによる暴走がありました。ある日農家の方が学校に怒鳴り込んできました。確か焼き飯坂の近くの坂道に置いてあったリヤカーが、道の脇の谷に落とされていたのです。これは商船の悪童の仕業に違いないと踏んだのです。またまた全員が集められ、君たちの中でやった者がいれば名乗り出よとの教官の言葉に、越前屋修君がハイ僕がやりました（酒を飲んでとは言わなかったけれど）と名乗り出て謝りました。すると今度は怒鳴り込んできた農家の方が、その若さゆえに外れたブレーキと素直な正直さに感激し、この１件で越前屋君はすっかり気に入られてしまいました。

又柿の実がたわわに実るころ、トンちゃんのホルモン焼きでおなかを満たしての帰り道、暗闇の中、柿の枝を折る音が聞こえました。頃合いを見計らって“こらあ～”と叫ぶと一瞬擬態をとる如く固まった後、樹から熊の仔が滑り降りるようにして、寮の方角へ退散してゆく者の姿を眺めていました。後ろ姿からは原純君と察しられました。彼も後に三井造船に転じ、練習船鳥羽丸を大手他社との激烈な競争を勝ち抜いて受注に成功し、その後の活躍で異例の抜擢を遂げたという武勇伝の持ち主です。

教官の方々もずいぶんと個性的な方がいました。

この原稿を書くまでお名前を知らなかった、船舶衛生を担当された佐藤和美教官。噂では陸軍中野学校出身という豪快な方で、船舶衛生について学んだことは何一つ覚えがなく、唯一青酸カリで鰻をとる方法、電線を引いて魚を感電させて取る方法のみでした。通称エロ医といわれ、経営する喫茶店で出会うとウエートレスや純真な若者には刺激の強すぎる言葉を乱発し、若いウエートレスを赤面させ面白がっていました。又目黒君は店でライフル銃の扱いを教えてもらったとのことでした。期末にはお前たちが問題を作れと命じ、誰かが作成していました。そのため船舶衛生は全員いつも満点でした。

当時は高一から受験するものも多く、高二から受験した先輩もおり年齢はバラバラでした。修学旅行も生徒で旅行計画を作り、33年入学36年卒の組は佐藤昭雄君が中心になって城崎温泉⇒松江⇒湯田温泉⇒福山⇒それから台風接近により白浜温泉を京都に変更した行程でした。様々な事情で37年卒の組は妙高高原から金沢そして城崎温泉でした。途中、春には一面の菜の花畑、秋には沢庵にするため天を覆うように高く干された一面大根畑の四日市付近を過ぎたころ、まだ禁煙でなかった車内でけしからぬことにたばこを吸っていると、いきなり連結のドアを開けて木戸教官が移動して来ました。大慌てで掌にたばこを握りこみ、座席のシートにこすりつけて消しましたがその時の掌の熱かったこと。片手で漂う煙を振り払いましたが教官は何事もなかったように皆無事かと声をかけたのみで次の車両に移動して行きました。木戸教官、小柳教官に次に会ったときは、あの時の温情のお礼とお詫びを申し上げたいと願っ

ています。金沢の旅館に泊まった時の事、いざ布団に入って寝ようとしていた時、ジキン（冶金）さんの愛称で呼ばれていた機関科の教官があろうことか酔ってお～い吉田、一緒に寝ようや！と私の布団に潜り込んで来たのです。私はすっ飛び起きて逃げ出しました。実は私も悪友と共に、近くの香林坊で少し酒を飲んでいたのです。前科のある身でばれたらお終いですから。今考えると生徒も教官も時効を迎えた愉快な思い出です。それにしても店も制服を着た若い高校生によく酒を飲ませてくれたものと思います。まだ時代が緩く温かかったのでしょうか。

最近の事、目黒邦夫君たちが伊勢志摩を周遊した際、昔懐ぱんじゅうを食べた懐かしい七越の前で昔を思い出しながら休憩していて同年輩とおぼしき女性と言葉を交わすことになりました。鳥羽商船の出身と判ると“あの頃、商船の生徒さんの制服姿が凛々しく格好良く私たちの憧れだったんですよ”と言われたそうです。私たちは意識していませんでしたが異色の存在ではありながら地域で一目置かれ、多くの人たちから温かく見守られていたのだと感じます。後輩の諸君たちにもぜひ、その伝統を受け継いでもらいたいと願っています。

そしてもう一つ本科生のころには若く未熟で消化しきれていなかった我々は、教官の方々に触れてもっと何かを吸収しておけばよかったと今になって惜しんでいます。金ちゃんの愛称で慕われ、英語の教官ながら黒板一杯に見事な一筆で世界地図を描いてみせた植村教官、伝馬船の艫（とも）に座り禅僧のように釣り糸を手繰っている姿が思い出されます。いるはずのない時間帯に、銭湯の湯船で鉢合わせして気づかぬふりをしてくれた小柳教官、お世話になった担任の落合弘明教官、その他思い出深い教官の方々。そしていまだに思い出す韻を踏んだ名調子での授業の木戸勝己教官。漢詩の授業での“楓橋夜泊（ふうきょうやはく）”の詩に「月落烏啼霜満天　江楓漁火對愁眠姑蘇城外寒山寺夜半鐘聲到客船」

月落ち烏啼き霜天に満つ、江楓漁火愁眠に對す、
姑蘇城外寒山時　夜半鐘聲　客船に到る
という漢詩がありました。

この詩の情景が永い間忘れ難く、数年前、やっと蘇州を訪れる機会を得ました。北京での大雪で飛行機が大幅に遅れ、到着した蘇州で念願であった寒山寺を、永い間心の中に抱き続けた光景と共に心行くまで味わいました。

60年以上も前に自分が教えた授業の一端が未だに生徒の心に深く刻まれ生き続けていたことを木戸先生の生前に感謝の心をお伝え出来たら…と。

心に残る今日この頃です。

（国立八期生　吉田　義郷　記）

第57回全国商船高専漕艇大会　観戦記

令和４年７月18日（海の日）、鳥羽商船を主管校として池の浦湾特設コースに於いて実施されました。

当日の天候は快晴、風はほぼ無風、海面はベタ凪の状態で最高の大会日和となりました。

コロナ過でも有り、残念ながら大島商船が参加辞退となりましたが他の４校での熱戦が繰り広げられました。前半はＢチーム･Ａチームの各予選を行い、後半ではＢチーム・Ａチームの各決勝が行われました。予選Ｂチーム第一試合は弓削vs広島。勝者はどちらか見ていませんでした。（本音、どっちでも良いのでスイマセン）

第二試合は我が鳥羽vs富山の戦いです。

鳥羽はクルー全員が円陣を組み一人一人雄叫びを上げムードも最高潮に達し、いざ出陣しスタートラインに位置し号砲と共に漕ぎ出しました。回頭地点は沖合750m、富山をブッチギッテ回頭を無難に終えゴール目指して漕ぎ上がり、ゴールでは３～４挺身差（少し盛ってます）で決勝進出を決めました。（富山は12人の漕ぎ手の内、女子生徒が５人とかなりのハンディが有ったと思います。カワイソ～ 涙）

次に、代表Ａチームの登場です。

Ａチーム予選第一試合は我が鳥羽vs富山（前評判では優勝候補の最右翼と言われていました。）我が鳥羽は例の如く円陣を組み、訳の分からない雄叫びを一人一人上げ（笑ってしまいました）颯爽と艇に乗り込み、いざ出陣とばかりにスタートラインへ向かいました。ゴールには富山に約３艇身差（ほんとかな？）をつけ決勝に進出しました。

直ちに次はＢチームの決勝が始まり、鳥羽vs弓削vs広島の３艇（富山はタイムで拾われず決勝進出を逃しました）での戦いです。

例によって円陣を組み訳の分からない雄叫びを上げ一人一人吠えて（笑い）艇へ乗り込み、スタートラインへとゆっくり漕ぎ出しました。（勇ましいですね～）

３艇が揃い、号砲一発一斉に漕ぎ出しました。

今回もブッチギリでゴールするかと思いきや、回頭地点で２位の広島に１艇身差を付けられ、見ている此方はありゃりゃのりゃそんなバナナあっ間違いそんな馬鹿なと思っていると、何となんと追い上げが始まりゴールでは２位の広島に半艇身差まで追い上げ堂々の３位（ホンマカイナ）となりました。３位だけど力を出し切った満足感で意気揚々と引き上げてきました。

最後のレースが近づいてきました。

Ａチームの決勝です。我が鳥羽vs弓削vs広島の３チームです。優勝最有力の富山は何処へ行っちゃったのでしょうね～。

予選タイムは広島がダントツで速かった。

我が鳥羽は例の如く円陣を組み訳の分からない雄

叫びを一人一人上げ、さらにそこにＢチームのメンバーも加わり、意味不明なる叫び声を上げ盛り上がっていました。

クルー一同は艇に乗り込み悲壮感漂う雰囲気を身に纏い、いざスタートラインへと漕ぎ出していきました。３艇の位置が整い、各艇白旗が上がり、号砲一発一斉に漕ぎ出しました。

摩訶不思議な事がおきました。最初に回頭を始めたのが我が鳥羽の艇で無事回頭地点をクリアし、徐々にピッチを上げゴールラインを通過するときには、２位（どっちの学校か分かりません。多分弓削かな？）に３艇身差を付けてブッチギリの優勝を果たし、クルーはポンツーンに戻って来る時には、櫂立てのパフォーマンスで、盛り上がりは最高潮に達し応援の人々から拍手喝采で迎えられました。

閉会式は暑さと腹のすき具合からパスさせてもらいました。

次年度の健闘を願い家路へと車を走らせました。

以上、私の偏見と少しばかり話を盛りました観戦記でした。

※ちなみに､現在のカッターはFRPでできています。
船足は早いです。オールも軽くて女子生徒でも軽々と櫂立てを行えます。

（木下　勝（S49E）　記）

ー 同期会・同窓会 ー

数年続いた自粛生活も終わりの兆しが見え、旧友たちとふれあう機会が増えました。

ご投稿いただいた記事は同窓会HP「会員の投稿」でご覧いただけます。

第87期（高専１期生）同窓会開催

令和４年10月27日(木)

幹事　濱地安実

高専６期生・S52年卒生同窓会開催

令和４年11月６日(日)

令和４年11月28日
幹事　N科 黒崎雅彦・E科 高木宏明

88期会・古希の同期会

令和４年12月３日(土)

令和４年12月25日
記：神子　功

高専12期生・（昭和53年入学生）同窓会開催

令和４年12月10日(土)

投稿者　　前川　剛

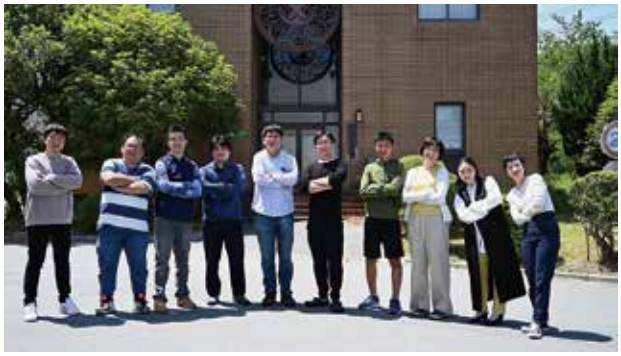
第87期（高専１期生）関東在者同窓会

令和５年４月２日（日）

幹事　田中秀紀
幹事代行　冨岡

平成16年卒（Ｉ12期）制御情報工学科同期会を開催

令和５年５月４日（木）



特集 「我等! 鳥羽商船」

在学生編

其々の学科で活躍する３年の寮生たち
学校での生活をご紹介します

端艇部

桜井　雅規　商船学科航海コース３年

私が端艇部で過ごした３年間について話したいと思います。

私は鳥羽商船高等専門学校に入学し、端艇部に入部しました。端艇（カッター）とは、12人の漕ぎ手、艇指揮、艇長の計14人で競技をする漕ぎ手ボートのことです。端艇部に入部した理由はどの部活に入るか悩んでいた時に、先輩に誘われて興味本位で入部しました。この時の私はこんなにもきつい３年間を過ごすことになるとは思ってもいませんでした。週６の練習に、土日は１日練習、大会前になると朝練や夜練もしました。辛い、しんどい、やめたいと思ったことは数えきれないほどあります。そんなしんどい日々の中で引退という日を迎えるまで続けてこれたのは、仲間の存在があったからだと思います。辛いとき、しんどい時、楽しいときにそばにいつもいるのは仲間でした。しかし、そんなどんな時も一緒に過ごしてきた仲間だからこそなんでも言えるようになるので意見のすれ違いは起きます。みんなが真面目に取り組んでいることだからこそ意見の違いが生まれて思うようにことが進まないこともありました。一人一人がじっくりと考えて出した答えだから、よく話し合いみんなが納得するまで話し合いました。このように一つのことに対してみんなで真剣に取り組んだからどんなことも打ち解けあえる仲間になったと思います。今では良い経験になったと思います。

ここまではしんどい話や辛い話ばかりで端艇部はしんどくてつらい部活みたいなイメージが出ているかもしれないので、楽しかったこと、思い出に残っていることについて話そうと思います。

端艇部は毎年高専大会があり鳥羽、広島、弓削、大島、富山の５商船のどこかで行われます。他商船の開催であれば現地までバスで移動するのでバスの中でレクレーションを行ったり、パーキングエリアで降りてみんなでおいしいものを食べたりします。大会では他商船の人と会えるので航海訓練前に仲良くなることもできます。また、他商船の端艇部の掛け声や漕ぎを見れるのも楽しみの一つであります。日々の練習では練習の休憩中に同じ艇のメンバーで話したり歌ったりします。暑い日には水浴びもします。また、端艇部はOBとの繋がりが強く練習に見に来てアドバイスしてくれたり、差し入れでアイスやスイカなどもいただけることがあります。後期になるとオフの日が増えるので先輩後輩関係なくみんなでカラオケやご飯を食べに行ったりなど色んなところに行って仲を深めていきます。

また、端艇部に入ると商船学科の教官が顧問をしていることが多いので顔を覚えてもらいやすくなるというメリットもあり、海技実習でもカッターをするのでみんなから注目を浴びることもできます。

今まで生きてきた中で端艇部は一生の思い出であり、この記憶は大人になっても忘れることはないと思います。それほど、私の中で端艇部という存在が大きいものだということを改めて私自身も感じました。たくさんの先輩後輩、仲間たちや教官たちが支えたくれたことに感謝しかありません。

皆さんもこのような体験をしてみたい、端艇部に少しでも興味を持って入部を考えていただけたなら嬉しいです。

カッター部に沼ったわけ

和田　美心　商船学科機関コース３年

この夏、私はカッター部を引退しました。３年間毎日練習に励み、辛い時も、しんどい時も仲間と共に努力し頑張ってきました。引退する日の前日にカッター部に入った時のことを､ふと思い出しました。元々、カッター部に興味がなく何をするのかも分からない部活に、絶対に入らないと入学前に決めていたのに、先輩に誘われカッター体験に行きました。先輩の艇指揮がとてもかっこよく、私も艇指揮がしたいと思い、入部しました。入ってからは大変なことばかりで、練習しても思ったように結果が出ませんでした。本当に辛かったです。そして、自信もなくしました。ライバルと戦うことを恐れ、クルーになることも考えました。でも、そんな時に支えてくれたのは、部活のメンバーです。沢山の人に助けてもらいましたが、あるクルーが、「艇指揮してくれてありがとう」と言ってくれ、この一言に何度も何

度も助けられました。辛い時にこの言葉を思い出して、また頑張ろうと思うことが出来ました。

私がこの３年間で学んだことは、結果も大事ですが、それと同じくらい結果に至るまでの過程も大事だということです。結果は絶対についてくるものではありません。しかし、そこに至るまでの過程は、誰にも奪われないし、誰にも消すことのできない、思い出として残ります。私は、その思い出が宝物です。練習は辛かったけど、メンバーと一緒に漕げたこと、一緒に遊んだこと、それ以外のことも本当に楽しかったです。一日一日が幸せでした。そして互いに切磋琢磨した、良きライバルがいてくれたからこそ、カッター部という部活が本気で取り組めたし、大好きなんだと思います。

第58回全国商船高等専門学校漕艇大会でＡ艇が優勝、Ｂ艇が３位になりました。私は３年生をメインとするＡ艇には乗れませんでしたが、優勝した時は、今までで１番嬉しかったです。Ｂ艇で辛い練習を乗り越え、最後まで漕いでくれたクルー、パートナーとして一緒に頑張った艇長、今回艇に乗ることはできなかったけど精一杯応援してくれた子、一緒に部活ができて、本当に楽しかったです。

３年間本当に辛かったですが、辛い時こそメンバーみんなで助け合い乗り越えたからこそ楽しさ、嬉しさがあると思います。良き同級生に恵まれ、後輩、先輩に恵まれ、カッター部として過ごした日々は私の青春でした。本当にありがとうございました。

最後になりますが、大会までサポートしてくださった教官方、先輩方、家族の方、そして応援してくださった全ての方々に感謝申し上げます。今後とも、応援のほど宜しくお願い致します。

暁寮の変化

小久保　七緒　情報機械システム工学科３年

私が鳥羽商船に入学したときはコロナ禍真っ只中でした。そのため、様々な制限があるなかで寮生活をしてきました。しかし、今年の５月上旬にコロナによる規制が緩和されたことで、様々な制限が解除されつつあります。ここからは、コロナ禍の生活と現在の生活を比較していきます。

初めに、コロナによって制限された３つのことについて話していきます。１つ目はマスクの着用についてです。自室以外でマスクを外しているところが見つかった場合は、始末書の対象とされていました。２つ目は食堂についてです。食堂では対面での食事を防ぐため、パーテーションが全ての席に設置されていました。また、食前と食後には自席の消毒が義務付けられていました。３つ目は時間の制限についてです。お風呂では三密を防ぐことを目的に、各学年で入浴時間が決められていました。しかし、その時間に人が集中し混み合っていたので、「本末転倒だな。」と思っていました。さらに、門限にも変更がありました。コロナ禍以前は、学年によりますが９時45分までででした。コロナ禍になってから現在にかけて、一律８時00分となりました。現在の門限も８時00分となっており、寮生から改善の要望が多く、検討されているところです。また、地域の祭りなどがあった際は、門限が９時45分に変更されます。

次に、寮の部屋割りについて話していきます。現在の暁寮はＡ棟（１、２年生と世話係学生）、Ｂ棟（３年生から５年生、男子留学生）、女子寮（全学年、女子留学生）の３つがあります。コロナ禍では感染防止のため全部屋一人部屋でしたが、現在はＡ棟の１、２年生は同学年同士での二人部屋で生活をしています。沢山の人との関わりを持つことを目的に、年に３、４回部屋替えをするそうです。現在の３、４年生は二人部屋を経験したことがないので、私も二人部屋で生活してみたい気持ちがあります。

最後に、暁寮で行われる行事について話していきます。コロナ禍で行われる行事では、寮内でのコロナ感染を防ぐためにオンラインで行われました。そのため、他学年との直接的な交流がなく、コミュニケーションが全くと言って良いほどありませんでした。しかし、今年からは他学年との交流を目的にたくさんの行事が企画されています。６月には寮生バーベキュー大会が開催され、各学年２人ずつで一つの机を囲んで食事をしました。全く関わりのない人ばかりだったので、初めは気まずい雰囲気になるかと思っていました。しかし、色々と話をしていくうちにお互い地元が一緒だったり、共通の趣味で盛り

上がったりしており、気が付けばとても楽しい空間になっていました。７月には七夕行事が開催されました。七夕行事はコロナ禍でも開催されていましたが、短冊に願いを書くだけのもので少し味気ないものでした。今年の七夕行事は今までのものに加えて、花火を一人10本、アイスが一人１個配布されました。寮生全員でする花火はとても綺麗でした。私自身花火をしたのは約４年ぶりだったので、中学生だった頃の思い出が蘇りとても懐かしく感じました。また、後期には寮生学年対抗球技大会も行われるので、それに向けて頑張っていきたいです。

コロナ禍と現在では生活が一変し、とても楽しい生活を送ることができています。これからも暁寮がより良いものとなるためには、寮長を始めとする役員の皆さんに加え、私たち一人一人が暁寮の寮生であることを自覚し、日々生活を送っていくことが大切です。ですので、私自身の生活を今一度見直すことが重要だと感じています。

バーベキュー大会

花火大会

卒業生編

鳥羽丸

山野　武彦　平成10年 機関科卒

はじめまして。機関コース27期生、鳥羽丸一等機関士の山野武彦です。この場をお借りして、練習船鳥羽丸について３つ書いていこうと思います。

まず、１つめは４代目鳥羽丸建造です。現３代目鳥羽丸は2024年夏頃引退し、2025年４月から４代目鳥羽丸が就航します。３代目鳥羽丸、就航以来30年（今年６回目の定期検査）1,200人を超える学生を育て、海運業界に送り出してきました。鳥羽丸に乗船していていつも思うのはその存在感と懐の深さです。鳥羽丸は何も言いませんが、学生たちのマザーシップとして母親のような優しさと無償の愛で学生たちを見守っている気がします。これまでたくさんの船に乗ってきましたが、見守られているという感覚は鳥羽丸が初めてです。そんな３代目鳥羽丸ですが、現在機関室の雨漏りや電気系統の異常、パイプの破孔等々いくつかの不具合があります。満身創痍の状態でも、最後の最後まで学生を育てるという職責を全うする姿は是非学生たちに伝わって欲しいなと思います。３代目鳥羽丸最後の一年、一緒に頑張っていこうと思います。そして、これから30年頑張ってもらう４代目鳥羽丸の就航に向けて、建造を進めていきます。

２つめはそんな３代目鳥羽丸最後の一年と４代目鳥羽丸の就航を一緒に頑張ってくれる乗組員の募集です。2023年７月７日現在、一等航海士と機関部員を絶賛募集中です。また、2024年４月１日採用で一等機関士も募集しています。現在の安定した環境を捨てて母校練習船の乗組員になるという選択は勇気がいると思います。結婚して家族がいるならなおさらだと思います。それでもあえて新しい環境に挑戦して欲しいと思います。自分のこれまでの経験や実際の仕事のことなど、それぞれの学年にあわせて話をすると学生たちはとても素直に聞いてくれます。私自身も学生を教育するというより、自分の経験や技術、知識を後進に引き継ぐという感覚で授業や実習を行っています。もちろん大変なことはたくさんあります。しかしそれ以上に学生たちの成長を間近で見られること、そしてその成長に携わるという経験は、教員ならではの醍醐味だと思います。他には、自分のやる気次第で資格試験の勉強会や海外留学の引率、部活動の顧問などより多くの学生と関わるきっかけがたくさんあります。次の時代に私たちと一緒に海技の伝承をしていきましょう。たくさんの応募を待っています。採用用件等は学校のホームページ教職員採用をご確認ください。

最後はSNSを使った練習船鳥羽丸の情報発信です。練習船鳥羽丸、2015年からFacebookを活用して学生の奮闘する姿を発信しています。基本的には保護者の方に向け離れて暮らす我が子の成長する姿を見てもらうため、そして進路に悩む中学生やその保護者の方に向け他高専との差別化を図るために更新してきました。そして、2023年６月からはInstagramと連動して、リアルタイムで学校生活も発信しています。今後、３代目鳥羽丸の引退と４代目鳥羽丸の就航、ほかにも令和７年度には本校創基150周年記念等、大きなイベントが目白押しです。随時情報を

更新するので、ぜひこの機会に練習船鳥羽丸FacebookとInstagramのフォロー宜しくお願いします。

当時を振り返って

西牧　史帆　平成24年 制御情報工学科卒

私が卒業してからもう12年が経ちました。執筆の機会をいただきましたので、学生時代から現在までについてお話したいと思います。

学生時代

学生時代の思い出といえば、当時の成績は下から数えた方が早かったこと、５年生で学生会長になり、その年の海学祭は難しいこともありましたがやってよかったと思えたことでしょうか。

当時、海学祭の催し物は毎年ほぼ例年通りでした。今考えると、多忙な４、５年生での企画運営、周辺企業様へのご挨拶も合わせるとそうせざるを得なかったのだと思います。しかし当時から負けん気の強いビッグマウスだった私は、好きにやってやろう！と思い殆ど全てを白紙に。担当者に予算と方針だけ伝え、後は任せることにしました。

また恒例だったのは、生徒会長と学生主事による学校紹介でした。これは入学希望者の中学生に対して校内を紹介しながらご案内するものだったかと思いますが、当時学生会にいた５年生は私１人。毎年恒例とは言え、一緒に頑張ってくれたメンバーにこれ以上負担をかけることはできず、結局、校内案内を実施しませんでした。予算も組んであったでしょうに、えらく叱られたように思います。しかし、密かに学生が楽しんでいる姿こそ、中学生にとっての志望動機になり得るのではと考えていました。

さて迎えた当日。模擬店を回る余裕もなくあっという間に終了。最後の片付けを終えた所で、学生主事に呼び止められました。ついに怒られるか…と覚悟した時、涙ぐみながら「今までで一番良い海学祭でした」と。こちらも堪え切れず涙。本当に至らぬところが多かったにも関わらず、協力してくれたメンバーや教官方にとても感謝したことを今でも覚えています。

卒業後

本校を卒業後は紆余曲折あり、今現在はキオクシア株式会社という半導体事業の会社におります。生産部門に対し、技術面で第一線を張る第一生産技術部という部署で、生産性改善の新要素検討業務を担当しています。簡単に言えば、効率的に無駄なくモノを流すために必要な要素を考える、０から１を作り出す仕事です。機密上、あまり詳しくはお伝えできないので割愛致します。

また社会人になった今でも、負けん気は変わっていないなと思うフシがあります。というのも現在、スノーボードを競技者としてやっていることが理由です。始めたのは23歳、会社の先輩に教えてもらいながら、初日に何もできず悔しいと感じてからはあっという間でした。毎週山に通うようになり、いつの間にか草大会で優勝するようになりました。

またここまでハマった理由はスノーボードの良さにあります。それは「スタイル」と言って、その人らしい“カッコよさ”が評価される点で、単純な技術評価とは異なり、フィギュアスケートの芸術点が近しいかと思います。さらに自分との戦いではありますが、どんなコンディションでも楽しむことが一番大切だと感じており、今はSNSを通した活動発信で、山の遊び方や楽しみ方を伝えられるスノーボーダーを目指しています。

2023年３月
オープンクラス優勝時
（山形県 湯殿山スキー場にて）

色々と書きましたが、これまでの人生を通して書ききれないほど様々な経験を得ることができました。それも本校を卒業したからではないかと思っています。この紙面を通じて、中々に手を焼く学生でも僅かながら成長している事をお伝えできていれば幸いです。「え？西牧って文字書けたの？」と声を漏らしそうな教官が頭に浮かびますね。拙い文章で大変申し訳ありませんが、最後までお読みいただき感謝申し上げます。

事務局だより

平素は同窓会活動にご協力ありがとうございます。

今年の夏は例年よりまして暑い夏になっています。WMO世界気象機関のターラス事務局長は地球温暖化の影響で頻発する異常気象は「新たな日常」今の気象が当たり前の地球になりつつあると警鐘を鳴らしました。同窓の皆様方、ご家族におかれましても、お体、充分にご自愛くださるようお願い申し上げます。

令和５年６月17日東京皇居前二重橋ビルの日本外国特派員協会において今年の同窓会総会が開催されました。当日、菅沼会長は急病でやむなく欠席しましたが、役員改選期の今年は理事会において菅沼会長が満場一致で再選されました。菅沼会長は幸い大事に至らず現在、社業と同窓会業務に無事復帰しております。

総会は鳥羽、東京、名古屋、大阪（神戸）の各地をオリンピック方式で順次開催されますが、コロナ禍により中止や場所の変更を余儀なくされ、７年ぶりの東京開催でした。

令和７年は母校創基150周年、同窓会設立100周年に加え、母校練習船鳥羽丸が新練習船に入れ替わります。母校と同窓会はこの慶事に互いに協力しあい、記念事業を計画しています。

皆様のお手元に母校と同窓会の２か所からご寄付のお願いが郵送されていると思いますが、青春時代を過ごした母校を思い出し、ご協力いただければ幸いです。

私達鳥羽商船同窓会は今の令和世代の人たちくらいから、「この同窓会は特殊な集まりですね」と耳にすることが度々あります。しかし、今の同窓会の昭和世代の理事たちも30、40代の頃は仕事と家庭の多忙さに追われ、商船同窓会はお爺さん達の集まりで自分達は関係ない集まりと思っていました。自分たちが50、60代になり、毎年送られてくる同窓会報をふと懐かしく開き、懐かしいクラスメイトや先輩、先生の名前を目にすると、あの青春時代を思い出し、郷愁にかられます。

この同窓会報は皆様と母校を繋ぐ架け橋です。

今後とも、同窓会活動へのご理解、ご協力よろしくお願いいたします。

同窓会の事務局理事は高齢化が進んでおりますが近隣の同窓生の協力を得て何とか運営しています。少しの時間でも手伝っていただける方が見えたら事務局までご連絡いただければ助かります。

事務局長　江崎　隆夫（S44E）記

同窓会事務局へのお問い合わせ、ご連絡、各お申し込みはメールにて承ります

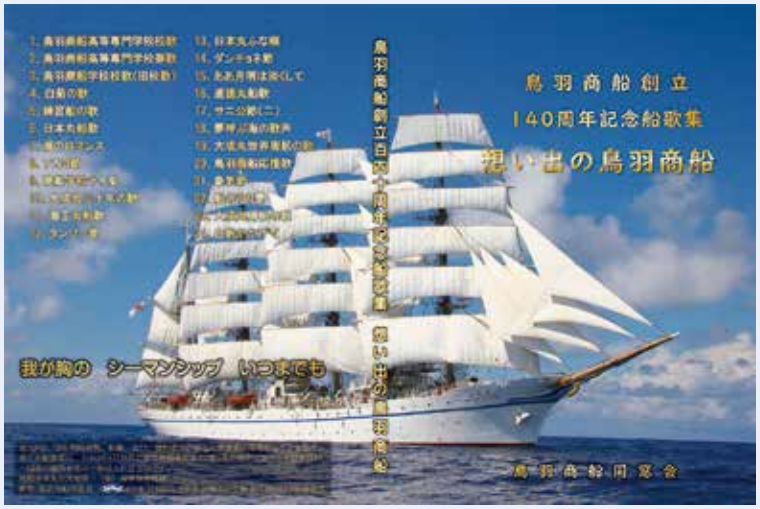
info@tobashousen-dousoukai.com

船歌集「想い出の鳥羽商船」
同窓会HPで視聴できます

パッケージの中は
CDとDVDセットです

同窓会HPでバナーをクリックして
頂きますと案内ページが開きます

サンプル映像を
同窓会HPに
公開しています。
是非ご覧ください。



校歌のDVDひとコマ

練習船の歌のDVDひとコマ

ホームページ
スポンサー
募集中!!

スポンサー広告ご協賛企業

ホームページ・名簿のスポンサーを募集しています。詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。

業務用加湿器のトップメーカー
Wetmaster

鳥羽の老舗割烈料理
大阪屋

ムロオ

名古屋メッキ工業株式会社
NAGOYA PLATING CO.LTD
OUR PRIDE
「水と空気以外はめっきします」

CFG グループ
自動販売機
ご紹介キャンペーン
株式会社フード・テクニカ
S55E 稲垣

学生募集
の
PR依頼

少子化の時代を迎え、義務教育以外の学校は皆、学生の確保に躍起になっています。特に大学は学生の全入学時代に突入し、一段と厳しさを増しています。将来に向け予断は許されず、学校としても学生募集のPRに励んでいます。

つきましては、より優秀な学生に入学していただくため同窓会員の御協力を仰ぎたい所存です。学校に御連絡いただければ、A2版ポスター・学校案内冊子・学生募集要項をお送りしますので、下記宛に御連絡いただきますよう、よろしくお願いします。

独立行政法人
国立高等専門学校機構
鳥羽商船高等専門学校

〒517-8501 三重県鳥羽市池上町1-1　電話(0599)25-8404
ホームページアドレス https://www.toba-cmt.ac.jp/　E-mail gakusei-nyushi@toba-cmt.ac.jp

◎書類請求（無料）は本校の学生課入試・支援係へ

同窓会事務局へのお問い合わせ、ご連絡、各お申し込みはメールにて承ります

info@tobashousen-dousoukai.com